

第2回 つくばの研修の特徴は？

林 幹雄 2012年総合医コース修了、指導医、筑波メディカルセンター病院 総合診療科
 山本 由布 総合医コース 後期研修医4年（神栖済生会病院 内科）
 松島 瑞穂 総合医コース 後期研修医1年（総合病院水戸協同病院 総合診療科）
 吉田 泰久 筑波大学附属病院 初期研修医1年
 浜野 淳（司会）2008年総合医コース修了、指導医、筑波大学附属病院 総合診療グループ

浜野 家庭医療、総合診療の後期研修プログラムは全国各地に広がっていますが、その中から「つくば」を選んだ決め手は何ですか？

バランス良く幅広い研修

林 しっかりと内科的な力を付けたいという気持ちがありました。それで、**バランスの良いところ**を探していて、**つくばは、いろいろな先生がいる**などと思って来ました。

浜野 実際に研修してみているかがですか？

林 同期でもやっている研修が全然違います。診療所で多く研修する人もいれば、病院で長く研修する人もいます。自由性があって、どこを勉強したいのかとか、学年ごとに次にこのあたりを勉強したいなどと考えながら研修しました。

浜野 山本先生はどうですか。後期研修の最終学年になりましたよね。いろいろ大変なこととか、困ったことがあるかもしれませんが、振り返ってみてどうですか。



浜野 淳

山本 やはりつくばの総合診療は**すごく幅が広い**です。研修先も筑波メディカルセンター病院みたいな大きな3次救急病院、筑波大学の総合診療外来、そして大和クリニックの在宅というように。

今年は神栖済生会病院の内科で働いていて、外来と病棟と、2次ぐらいの救急を受けていると、今まで、筑波メディカルセンター病院で救急をやって、大和クリニックでは高齢者を中心とした在宅ケアをやり、大学の総合診療外来では、難しい主訴の鑑別診断をしたりしてきましたが、**今までの経験が生きている**ということが徐々に分かってきて、**幅広い研修ができたことを実感**しています。

地域の役に立てる「何でも診ます」

浜野 中小の病院で働いてみて、今までやってきたことが全部生きていますか？

山本 はい、全部生きていたと思います。つくばでやってきて良かった、私はここにいて役に立っているかもしれない、**地域のために働いている**のかなという思いがあります。「何でも診ます」というのは、**つくばで研修してきたからできる**のかなと思いました。



山本 由布

浜野 知識がついてきたという実感に加えて、地域の役に立っているという感じはすごいですね。

松島先生はどうですか。まだ、後期研修が始まったばかりですが。

松島 私は今、水戸協同病院の総合診療科で研修していますが、**つくばの後期研修を選んで良かった**というのが一番の気持ちです。本当に、**何でも診させてもらえる**のと、上の先生方もそういう方たちが揃っているの、患者さんが入院されてきて、メインプロブレムはもちろんありますが、それ以外の小さいプログラムも探り出して、それも全部**包括的に診ることができる**し、上の先生にも相談できて、非常に面白いとか、楽しいとか、**私がやりたかったことはこういうことだ**というのを**実感**しています。**総合医コースを取って良かった**と思います。すごく面白いです。

浜野 後期研修が始まったばかりですが、とても充実した研修が送られているようですね。



松島 瑞穂

松島 3年目ということもありますが、「初期研修の2年間である程度は分かるようになっていたんだな」という実感と、「全然足りない分野がいっぱいあるな」ということが双方あります。今はその**足りない分野を勉強できる機会に恵まれている**ので、すごく良かったと思っています。だから、全然自分ではできないと思うことは多々ありますが、でも、学ぶ環境に置かせてもらっていて、頑張ろうという気持ちが今はすごくあります。分からないことは分からないことで、分かるようにしていこうと思えますし、**頑張れる環境にいられて良かった**と思っています。

生活のことまで積極的に関わる

浜野 初期研修との違いは、他にありますか？

松島 そうですね、水戸協同病院では、3年目で退院までのマネジメントを考えるようになりますので、それも面白いです。考える過程において、その方の**暮らしや、家族環境などについて、自分が主体的に取り組み、**いろいろなアプローチができるのも面白いです。ソーシャルワーカーさん達とも積極的に協力してマネジメントに取り組んでいると思います。

林 忙しい中で問題点があるところをちゃんと把握できていてすご

いですね。僕は3年目でそこまでできなかったかもしれない。

浜野 例えば、古田先生だったら、こういうところなら、研修してもいいとか、研修の希望は漠然と何かありますか？

古田 大学で1.5カ月間の研修を主に外来でさせていただきましたが、最初に目標に掲げていたことで一つできなかったことがあります。多職種での医療という、それこそ**退院後の生活をどうする**というところで、きっとソーシャルワーカーさんと連携してADLを評価したりして、**退院後も安心して生活できる暮らしを提供できる医療**にもう少し触れてみたいという目標がありましたので、後期研修でそういう勉強をしてみたいと思います。



古田 泰久

みんなで掘り下げる研修

松島 いろいろなプロブレムを抱えている人を全部診られるのも面白いと思っています。初期研修だとその科のメインプロブレムを解決すれば終わりでしたが、全部包括的に診られるので、少し気になる**ところも掘り下げていくことができるので面白い**です。

浜野 初期研修だとその科のメインプロブレムを解決すればというのは確かにそうだったと、その目的で入院しているから、目的が終わったら退院すればいいという感じですね。

松島 それが、いろいろな問題にちゃんと目を向けて、さらにそのことを上の先生も分かっているしやる環境がなかなかないですね。**一緒に考えてくださるのが素晴らしい環境**だなと。

いろいろな場を経験することで身につく広い視野

林 僕は**つくばの後期研修**で大病院みたいな大きい病院から、市中病院、そして診療所まで、**全部回ったのが良かった**と思っています。

診療所を回ると地域のニーズが分かり、ニーズが病院にいるときとは違う視点で見えたりします。退院した後にどんな生活をしているとか、そういうところを見る形になります。その目で、また病院に戻ったら、**この患者さんは退院したらどうなるのかな**という推測の下に、病院ではここまでしかできないけど、退院後のために、こういう道筋だけ付けようとか。そういうふうで紹介の仕方も変わりました。

そういう気持ちがあるので、**後期研修でいろいろな場を経験したのが良かった**と思っています。



林 幹雄

浜野 ありがとうございます。いろいろな場で研修することで幅広い視野、そして、深く掘り下げられた知識と経験を身につけるができて、地域の役に立てる先生が今後も増えていくと我々としても嬉しいですね。 //